

くさかつた 奈良

むかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました。

ある日のこと、おじいさんは山へ柴刈りしばがに、おばあさんは川へ洗濯せんたくに行きました。おばあさんが川で洗濯をしていると、川のかみ上のほうから、大きなおいもがどんぶらどんぶらこつこつこすつこつこと流れできました。おばあさんは、よろこんでおいもを拾つてうちに持つてかえりました。そして、焼やきいもにして、おじいさんの帰りを待つていました。

いくら待つてもおじいさんは帰つてこないし、おばあさんは、お腹がすいてたまりません。あんまりお腹がすいたので、おじいさんの帰りを待ちきれず、ひとりでおいもをぜんぶ食べてしまいました。

すると、お腹が大きくなつて、お腹が張はつて、ぶうつとおならをしてしまいました。山ではおじいさん、柴を刈らずに草刈つた。ああくさかつた、くさかつた。

おしまい

原話・『奈良県吉野郡昔話集』国学院大学説話研究会

再話・村上郁

